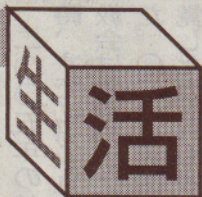


©東京新聞2013年2月13日



何らかの原因で食事が取れず、患者さんの栄養状態が悪化するこ

とがあります。当院では在宅療養の開始時、MNA(簡易栄養状態評価表)という方法で栄養状態を診ます。体重や身長をもとに

点数をつけるものですが、測定が難しければ、上腕周囲を測ったり、血液検査で評価します。当院では患者さんの八割に何らかの問題があります。

栄養状態が悪いと肺炎などの感染症にかかりやすく、傷も治りにくい可能性があります。病気の経過や余命に影響するともいわれています。人工的な栄養などで医学的に介入すれば、より長く生き

Dr. 松井英男の在宅医療のカルテ



悪い栄養状態

病気の経過、余命に影響

ることはできません。

F子さんは数年前に脳梗塞を起こして寝たきりです。寝たきりとは「日常生活が介護なしにできず、一日の大半を寝て過ごすことが半年以上続く状態」です。身体的に動けない

状態のほか、精神的な原因も考えられます。その状態によって、介護保険のサービスが受けられます。

F子さんは要介護認定を受けています。自分で物をみ込めないので胃ろうを作り、栄養剤を注入していま

す。幸い誤って唾液などが気管に入ることもし少なく、自宅で生活ができています。

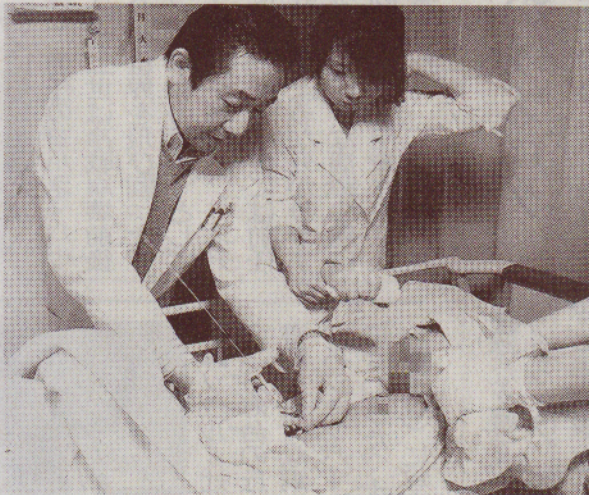
半年に一回、胃ろうの管を換えなければなりません。家でも交換ができますが、病院と同様な水準の安全性が必要で、入れた管がきちんと胃の中にあることを内視鏡で確認します。

物をのみ込めるようになれば、胃ろうの管を抜くこともできます。胃ろうの恩恵も大きいですが、亡くなるまで続ける場合が多いのです。

(川崎高津診療所院長)

次回は二月二十七

胃ろうの管を交換する松井医師(川崎市)



日掲載